

2050ゼロカーボン・ ヤチヨ・シンポジウム

地域のチカラで
温室効果ガス排出量
実質「ゼロ」をめざそう!!



令和7年(2025年)

2月8日(土曜)

13:30~16:00
(受付:13:00より)

会場 セントラルスポーツ生涯学習プラザ
2階 多目的ホール (八千代市ゆりのき台3-7-3)

参加費無料
事前申込み不要

内
容

基調講演 世界の脱炭素の情勢、八千代市におけるポテンシャルや展望について講演いただきます
「ゼロカーボンシティ実現に向けた地域の課題と展望」
講師: 特定非営利活動法人 環境エネルギー政策研究所 首席研究員(理事) 松原 弘直 氏

事例紹介 企業・団体・自治体より脱炭素や地球温暖化対策に関する取組みを紹介していただきます
株式会社TOAシブル、一般社団法人やちよ未来エネルギー、松戸市ゼロカーボンシティ推進担当室

パネルディスカッション 八千代市で地域脱炭素を進めるための方法を模索します
参加者(予定): 株式会社TOAシブル、一般社団法人やちよ未来エネルギー、八千代市環境審議会、
松戸市ゼロカーボンシティ推進担当室、八千代市立村上東中学校、八千代市

問合せ 八千代市 ゼロカーボンシティ推進室 電話 047-421-6767(直通)



主催/八千代市 協力/やちよ自然エネルギー市民協議会・(公財)八千代市地域振興財団・八千代商工会議所・八千代ユネスコ協会

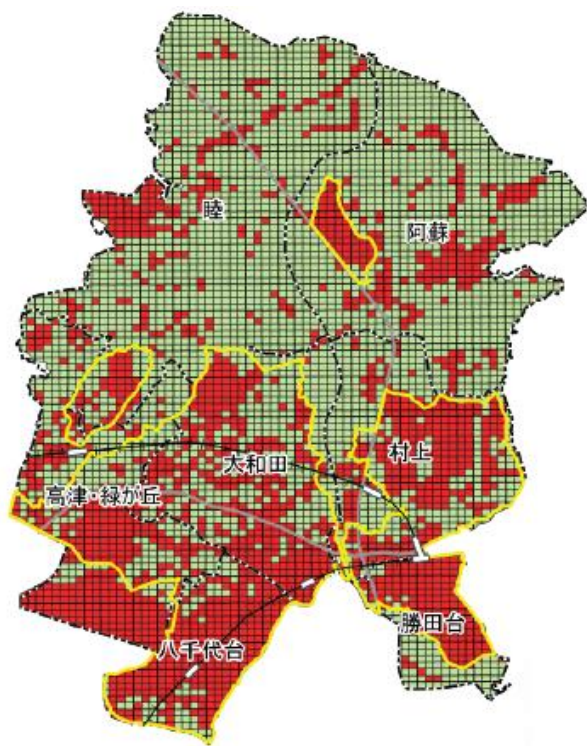
八千代市における 地域脱炭素の取り組みについて

八千代市経済環境部ゼロカーボンシティ推進室

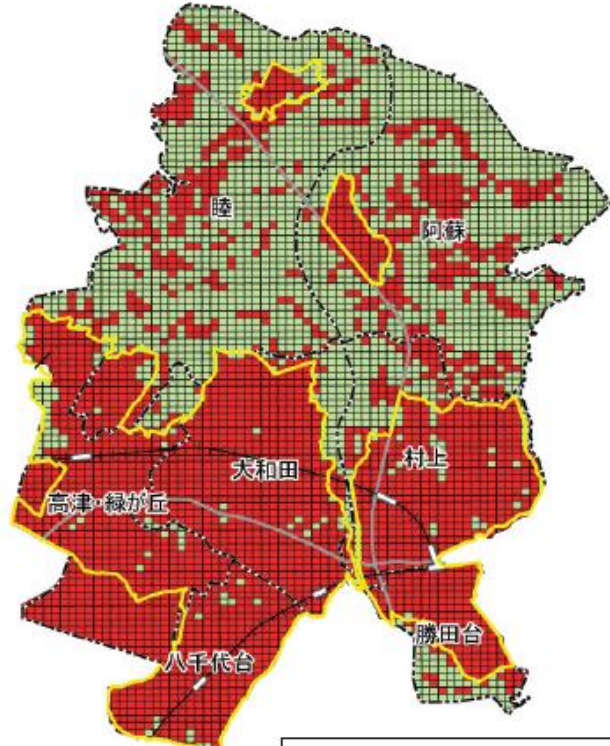
八千代市のあゆみと将来の土地利用方針

大正15(1926)年	京成電鉄成田線開通, 大和田駅が開業
昭和29(1954)年	「八千代町誕生」千葉郡大和田町と睦村が合併, 八千代町ができる
同年9月	印旛郡阿蘇村を合併, 人口15,618人
昭和31(1956)年	八千代台駅開業
昭和32(1957)年	日本初の大規模住宅団地, 八千代台団地完成
昭和42(1967)年	「市制施行」人口41,574人で市制施行
昭和43(1968)年	勝田台駅開業。勝田台団地完成
昭和45(1970)年	市街化区域と市街化調整区域の区分, 米本団地完成
昭和47(1972)年	高津団地完成
昭和48(1973)年	人口10万人を越す
昭和50(1975)年	人口10万人以上の市で全国一の人口増加率
昭和51(1976)年	村上団地入居開始
昭和62(1987)年	市制施行20周年を迎える。緑の都市宣言。平和都市宣言。ゆりのき台団地完成
平成3(1991)年	人口15万人を越す
平成8(1996)年	東葉高速線開通
令和2(2020)年	人口20万人を越す

2024年12月 人口は約20万6700人
面積は51.39平方キロメートル

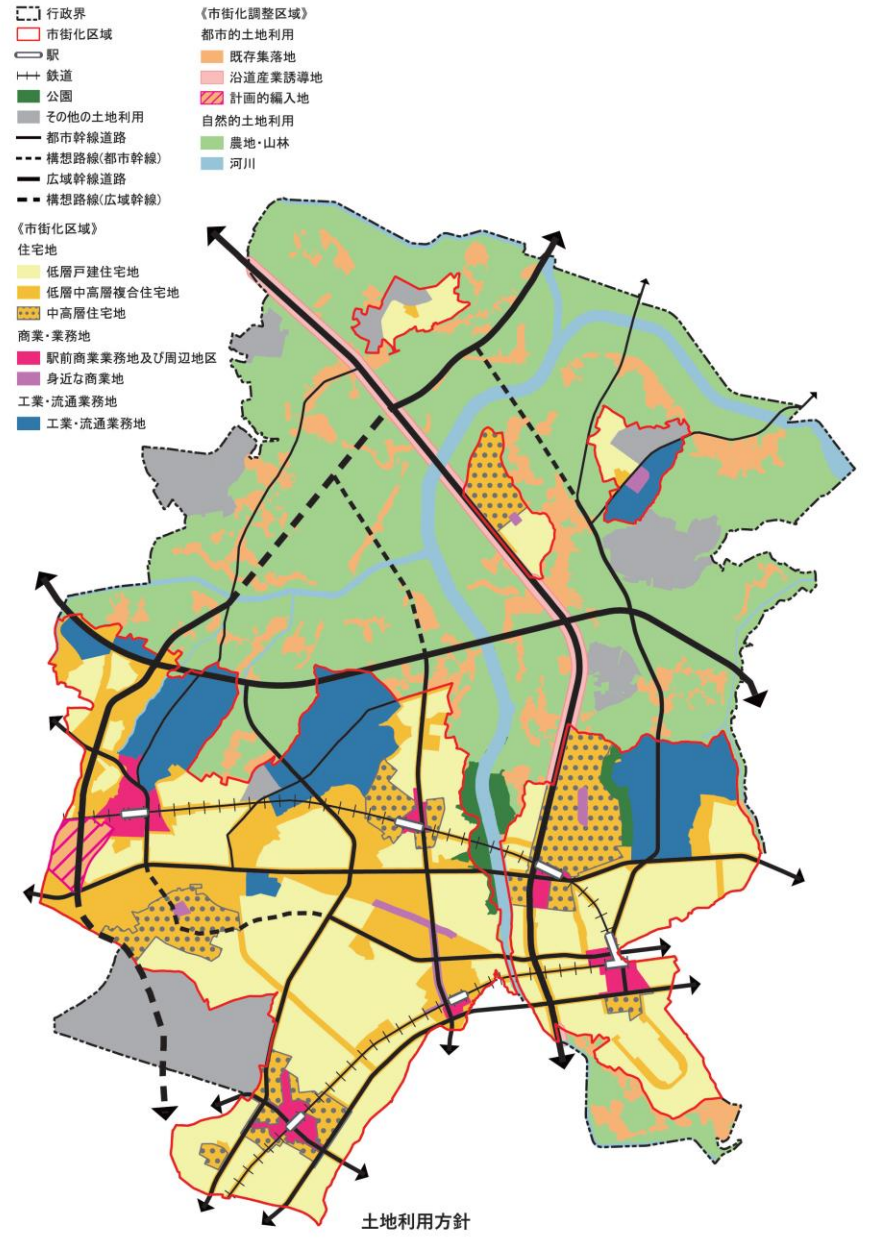


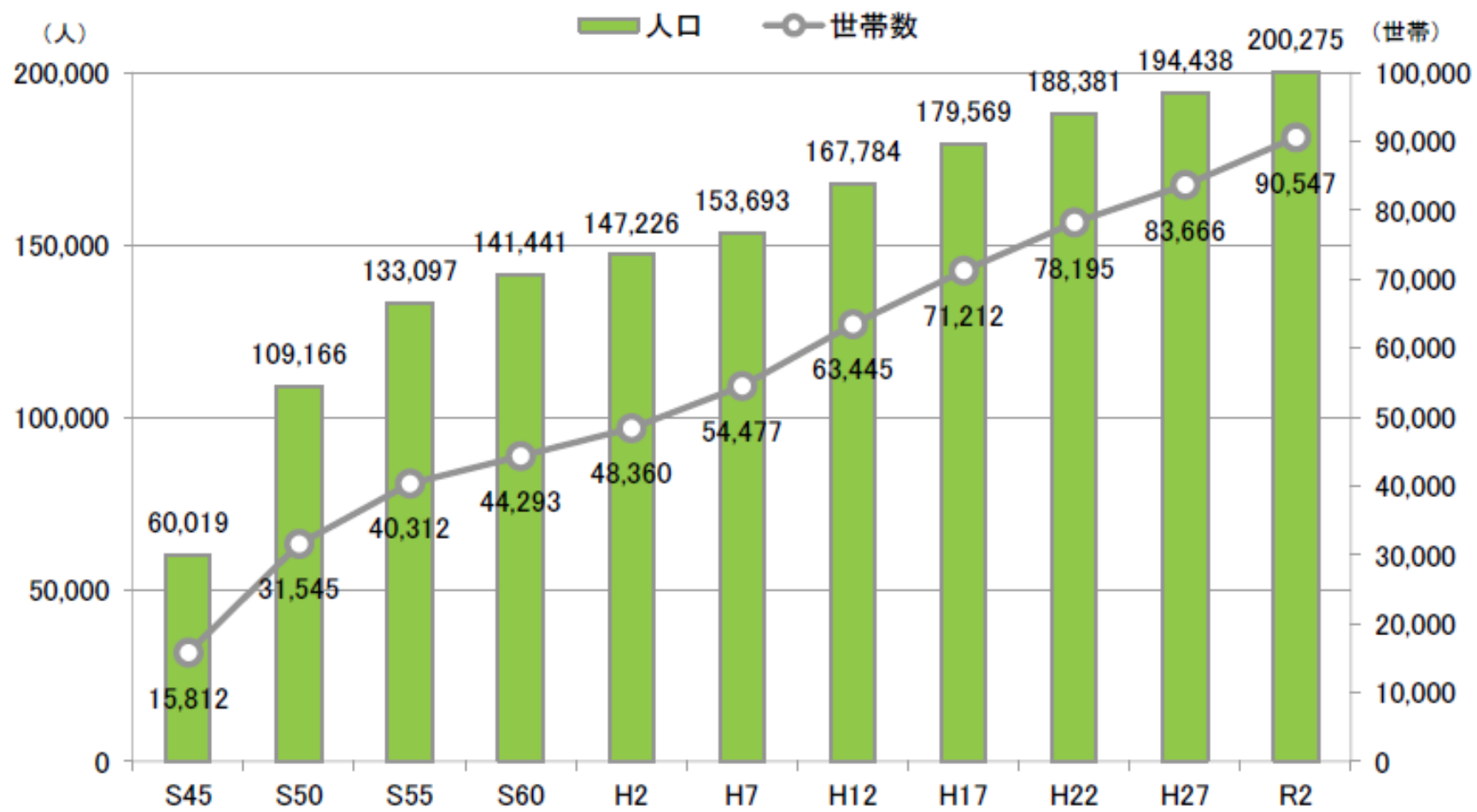
昭和 51 (1976) 年



平成 28 (2016) 年

- 凡例
- 市街化区域
 - 都市的・自然的土地利用
 - 自然的土地利用
 - 都市的土地利用

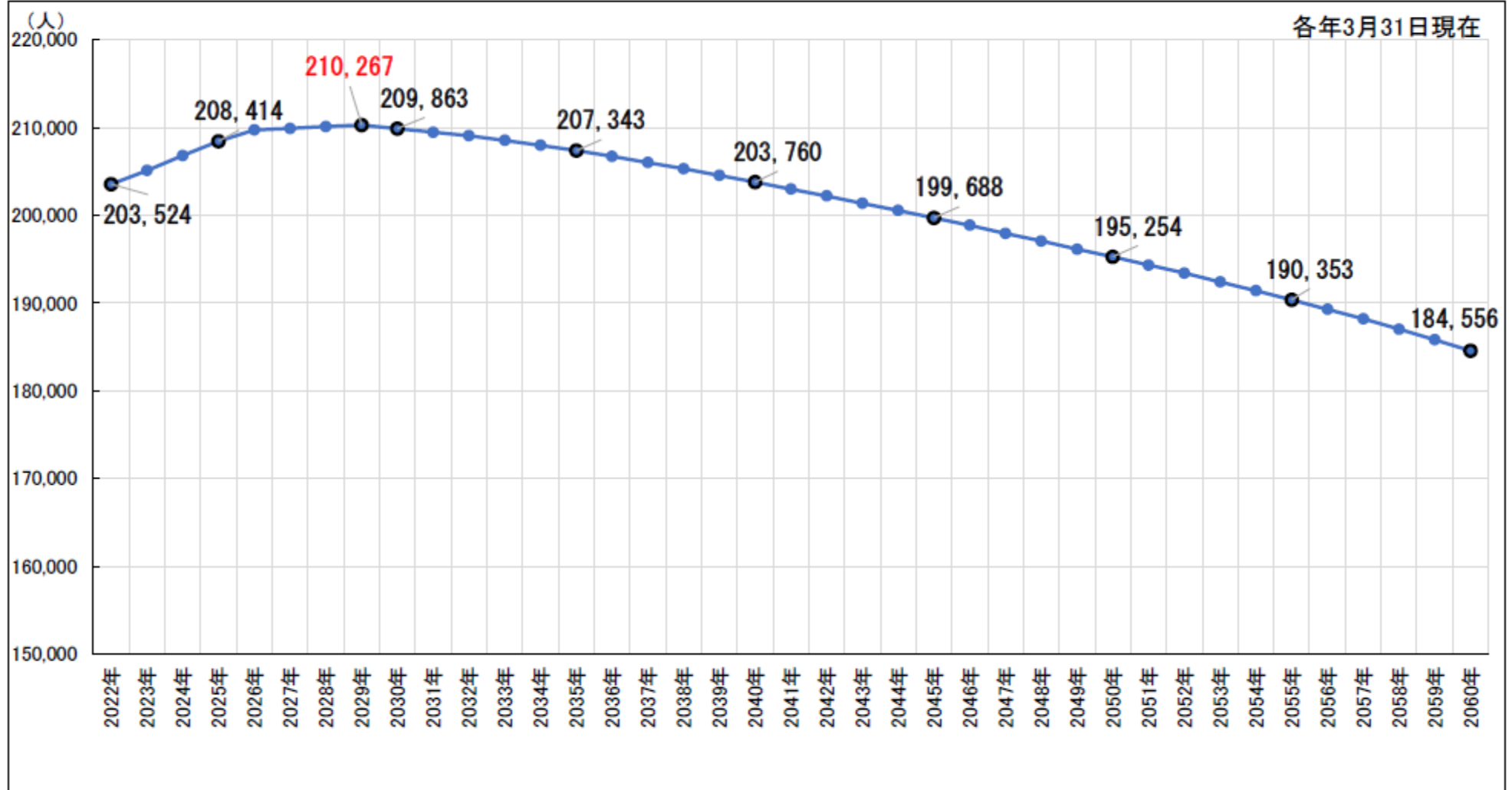




人口及び世帯数の推移

資料：住民基本台帳

八千代市総人口の将来人口推計結果



八千代市の地球温暖化による環境変化と課題

八千代市においても、過去30年で年平均気温が2℃近く上昇している。

2019年9月の台風15号では、過去例のない強風被害が発生し、農業被害や街路樹等の倒木など大きな影響があった。

千葉県における熱中症アラートの発令回数は3年間で約3倍になった。
(2022年12回, 2023年34回, 2024年39回)

八千代市における熱中症による搬送件数が大きく増加した。
(2022年58件, 2023年88件, 2024年106件)

2023年の市民アンケートでは、「気候変動や地球温暖化が心配で関心がある」との回答が9割
(ところが八千代市がゼロカーボンシティ宣言をしていることを知らないとの回答も9割)

市としても、気候変動による市民生活への影響を防止・軽減するための対策とゼロカーボンシティの実現が必要であると考えている。

八千代市のゼロカーボンシティ宣言と地域脱炭素ロードマップ

2024年国際的には、気候変動問題は人間活動が温暖化の主因で、疑う余地がないと断定されています。

回復不可能に・・・ティッピングポイントが迫る！

八千代市は、2020年12月に2050年に二酸化炭素の実質排出量をゼロにする（2013年度比 100%削減）ことを表明する宣言をしている。

2050年のゼロカーボンシティ実現を目指すため、2024年3月に脱炭素のシナリオとして「八千代市地域脱炭素ロードマップ」を策定し、脱炭素社会の実現に向け、各主体における取組を推進することとしています。

八千代市 地域脱炭素 ロードマップ

～ 2050年脱炭素社会を目指して ～

令和6年3月



はじめに

気候変動問題は今や「気候危機」とも言われており、平均気温の上昇や台風による被害など避けて通ることが出来ない喫緊の課題となっております。

この地球規模の課題である気候変動問題の解決に向けて、2015年にパリ協定が採択され、世界共通の長期目標として、今世紀後半に温室効果ガスの人為的な発生源による排出量と吸収源による除去量との間の均衡を達成することなどが合意されました。

このような社会的な動きを受け、本市は、2020年12月に、2050年カーボンニュートラル宣言を行い、2050年カーボンニュートラル宣言を表明するゼロカーボンシティ宣言を行っており、そこに至るまでの道筋を示すことを目的に、このたび「八千代市地域脱炭素ロードマップ」を策定しました。

今後は、本ロードマップに基づき、脱炭素社会の実現に向け、「ひと」「まち」「みらい」をキーワードに、着実に歩みを進めて参りたいと考えておりますので、皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本計画の策定にあたりアンケート調査やパブリックコメントを通じて貴重なご意見を賜りました市民の皆様、ヒアリング調査にご協力をいただきました事業者の皆様、審議を重ねていただきました八千代市環境審議会委員の皆様、あらためて深く感謝を申し上げます。



令和6年3月
八千代市長 服部 友則

地域脱炭素ロードマップの概要

コンセプト

「ひと・まち・みらい 地域力で脱炭素を実現する」

ゼロカーボンシティ実現に向けた3つの方針

① 「ひと～ライフスタイル・社会システムの変革～」

情報発信や環境教育・環境学習等を通じ、ライフスタイル・社会システムの変革を促し、ソフト面からゼロカーボンシティ実現を図る

② 「まち～地域全体への既存技術の普及～」

地域全体で現状導入が可能な技術・機器等の早急な普及や、自然環境が有する多様な機能を活用するグリーンインフラの取組等を推進し、ゼロカーボンシティの実現を図る

③ 「みらい～革新的技術の早期実装～」

ゼロカーボンシティの実現には新たな技術の開発も必要。今後の技術開発に依存するところが大きく、市単独での取組は困難ではあるが、事業者等と協働することで革新的技術の早期実装を進め、ゼロカーボンシティの実現を図る。

ひと
ライフスタイル・
社会システムの変革

**意識啓発の強化による
相乗効果**

- 脱炭素型ライフスタイルの普及推進 4千 t-CO₂削減

まち
地域全体への
既存技術の普及

- 省エネルギー性能の高い設備機器の導入推進 348千 t-CO₂削減
- 再生可能エネルギーの普及推進 17千 t-CO₂削減
- 次世代自動車の普及推進 36千 t-CO₂削減
- 環境にやさしいまち・交通への転換 20千 t-CO₂削減
- 谷津・里山の保全・活用、森林等吸収源の適正管理の推進 11千 t-CO₂削減

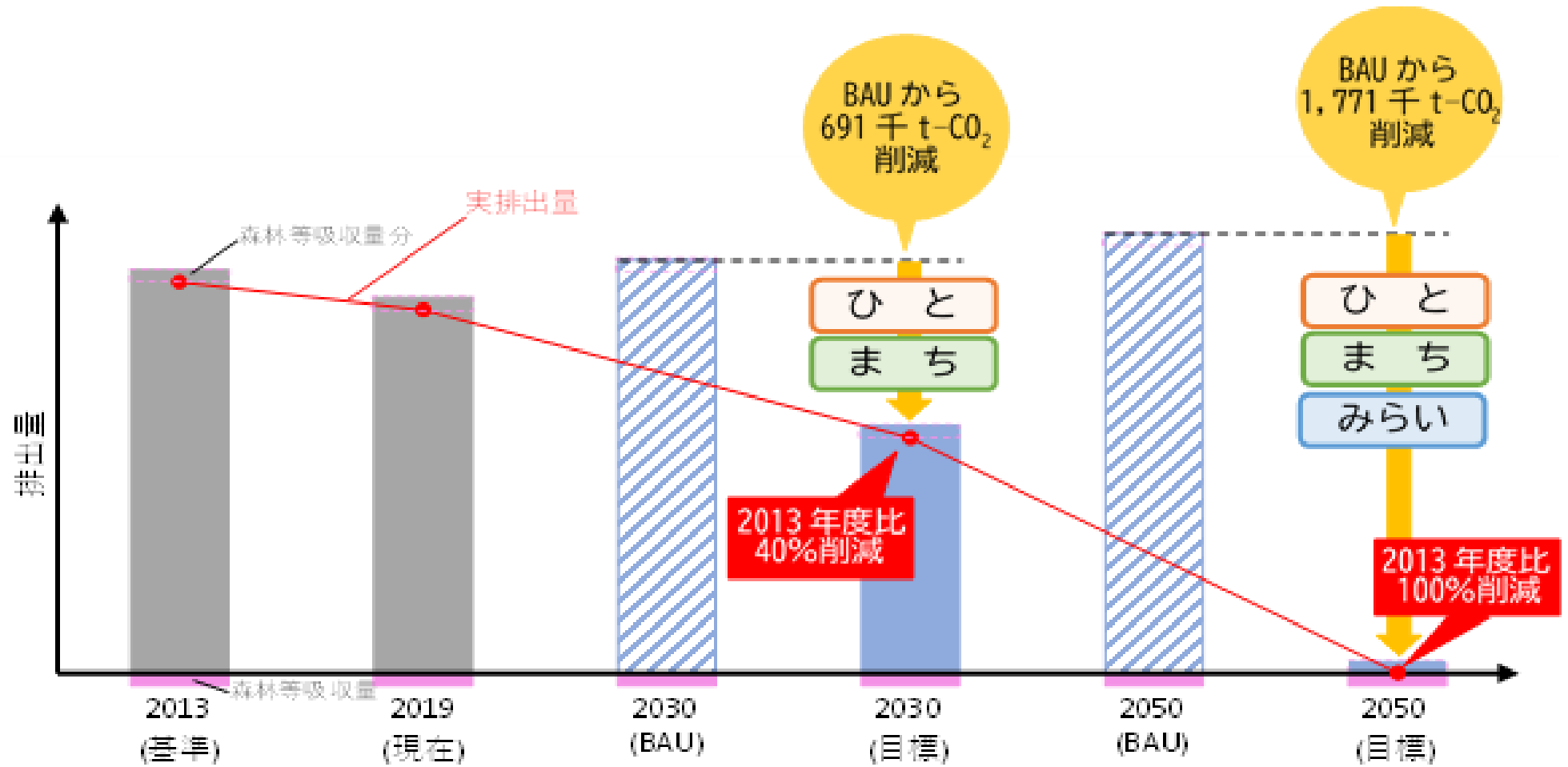
等

みらい
革新的技術の早期実装

- 水素エネルギーの導入
- カーボンリサイクルの導入

2030年までに
左記の主な取組
などにより
691千 t-CO₂
削減
を目指します

2030年以降
さらなる取組で
より一層の
削減
を目指します



ゼロカーボンシティの実現は、2030年度までは、現状における技術や行動変容による取組で、まずは二酸化炭素の排出量を2013年度比40%削減を目指し、2030年度以降については技術革新などを踏まえた対策を通じて取組を加速化し、2050年にカーボンニュートラルを目指すこととしている

2050年にゼロカーボンシティを 実現した八千代市のイメージ

市民、事業者、市の様々な日常的脱炭素の取り組みが、未来の八千代市の持続につながっている！！

本日をこのような未来が実現できる、
きっかけの日にしたいと考えています。

このあとのプログラムを踏まえ、市民や
事業者の方々との協働や、ご支援・ご協
力が頂ける環境を整えることができれば
幸いに存じます。

ご清聴ありがとうございました

